

本パンフレットは、陸上貨物運送事業労働災害防止協会のご協力を頂き作成いたしました。

やってみましょう
危険予知トレーニング
—職場の労災事故防止対策—

JTA 社団法人 全日本トラック協会 労働部

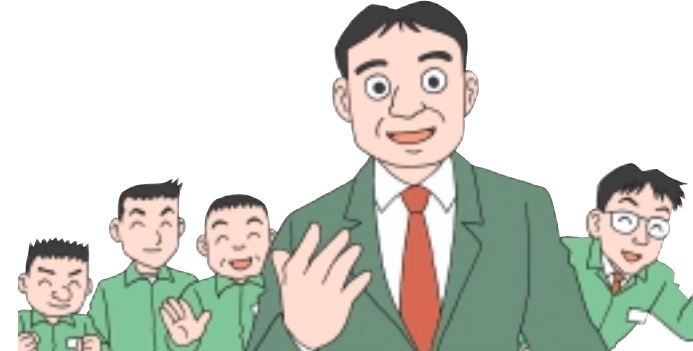
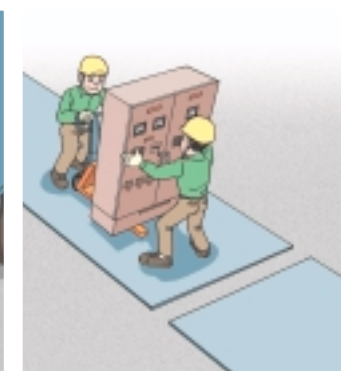
〒163-1519
東京都新宿区西新宿 1-6-1 新宿エルタワー 19 階
TEL. 03-5323-7626 FAX. 03-5323-7230
ホームページ <http://www.jta.or.jp>

やってみましょう

危険予知 トレーニング

—職場の労災事故防止対策—

平成21年3月



JTA 社団法人 全日本トラック協会

はじめに

平成20年（1～12月）の陸上貨物運送事業における労働災害発生状況（平成21年3月7日現在、速報値）は、死亡者数が145人、休業4日以上之死傷者数が12,828人となっています。

上記の労働災害発生状況の内訳を見ると、休業4日以上之死傷災害の約70%は荷役作業中（人力作業、機械作業）に発生しています。また、荷役作業中の事故原因は「いつもこうしてやっているから大丈夫だ」といった慣れによる油断、あるいは日常作業の中に潜んでいる危険に対する意識の欠如などが考えられます。それだけに作業に対する意識を変革する（神経を配る）だけで、事故発生率を軽減することが可能であり、荷役作業時の労働災害の削減は、トラック運送業界の安全確保に向けた大きな課題といえます。

本書は、日常作業の危険に対する意識を高めるトレーニング方法「危険予知トレーニング」について、わかりやすく紹介したものです。危険予知トレーニングは、職場における身近な安全対策として推奨されていますが、トレーニング指導者の不足、運転者が集合する余裕がない、トレーニングや現場で実践する時間がない、具体的な手順がわからないなどの理由から敬遠している事業者も散見されています。

本書では、トラック運送業界で特に事故件数が多い、「積卸し作業中」の事例を中心に取りあげ、トレーニングの具体的な進め方、取り組み方について解説しています。危険予知トレーニングは決して難しいものではありません。しかも、定着すれば、職場に多大な安全効果を生み出します。

ぜひご活用いただき、貴社の実際の現場の状況に則した危険予知トレーニングへと発展させていただくことにより、管理者をはじめ、運転や作業に携わる方々が共に労働災害の撲滅に取り組んでいただければ幸いです。

平成21年3月

社団法人 全日本トラック協会

目 次

I	労災事故防止に最適なKYT (危険予知トレーニング) とは	1
	KYTのメリット	
	KYTの手法例	
	KYT手法の基礎手法「4ラウンドKYT」とは	
II	4ラウンドKYTの具体的な進め方	2
III	事例をもとに4ラウンドKYTをマスターしよう	4
	第1ラウンド 現状把握 どんな危険が潜んでいるか	
	第2ラウンド 本質追求 これが危険のポイントだ	
	第3ラウンド 対策樹立 あなたならどうする	
	第4ラウンド 目標設定 私たちはこうする	
■	事例 どんな危険が潜んでいると思いますか？	8
	No. 1 4トン車の後部に設置されたテールゲートリフターを使って、ロールボックスを卸そうとしています。	
	No. 2 高さ3mのラック（棚）から段ボールを取るために、フォークリフトを呼んで、空パレットを差して、その上に乗って作業をしています。	
	No. 3 トラック荷台に貨物を積載後、あおりに乗ってシート掛けをしています。	
	No. 4 ハンドリフトに制御盤を載せて、2人で設置場所まで運搬しようとしています。	
	No. 5 トラックの荷台上でラッシングベルトを緩めようとしています。	
	No. 6 重さ30kgの段ボール箱を持ち上げて、台車に積もうとしています。	
	No. 7 トラックで品物を配達作業中、荷台から道路上に飛び降りようとしています。	
	No. 8 車両を止めて、トラックの荷台から荷を卸そうと“後ろの扉”を開けようとしています。	
	No. 9 客先の工場敷地内にて、フォークリフトでトラックの荷台上に荷物（パレット荷）を積込んでいます。荷物の位置決めのため、合図者（トラック運転者）が荷台上で誘導しています。	
	No.10 雨天時、屋外での車両からの荷卸し作業中、養生用のベニヤ材を卸そうとしています。	

I

労災事故防止に最適なKYT (危険予知トレーニング) とは

危険予知トレーニングは、「危険(K)」「予知(Y)」「トレーニング(T)」の頭文字をとって「KYT」と呼ばれています。KYTは、現場作業での一般的な危険にはどのようなものがあるかを、1枚のイラストや写真をもとに小グループで討議。参加者一人ひとりが自分の発想で、そこに潜む危険性を挙げていくトレーニング法です。

KYTのメリット

KYTには、次のようなメリットがあります。

- ・実施方法が簡単です（繰り返し実施することで、すぐに慣れ、時間も短くて済みます）。
- ・イラストや写真を使用して実施するため、状況を目で確認でき、実践感覚が養えます。
- ・KYTでは、最後に指差呼称項目を決定し、それを声に出して唱和するため、グループ内の同意が得やすくなります。
- ・“行動する前に安全を先取りするトレーニング”を重ねることにより、“危険を察知するコツ”を身につけることができます。

KYTの手法例

KYTは、ミーティングや職場内研修の場を通じて、日常作業に潜む危険情報を共有し、事前に予測できる災害の発生を未然に防止しようとするものです。KYTには、次のような手法があります。

4ラウンドKYT

チームで、イラストを使用して現場や作業に潜む危険を発見→把握→解決していく手法。**KYT手法の基礎手法**です。

ワンポイントKYT

作業にどう対応するかといったとき、メンバーがさっと集って行うKYT手法。4ラウンドKYTの第4ラウンドを1項目に絞り込み、口頭で行います。

一人KYT

4ラウンドKYTのイラストを見て、一人で危険ポイントを1つに絞り、行動目標、指差呼称を設定していく手法。感受性能力とKY能力を養います。

健康KYT

「目配り・気配り・心配り」のできるリーダーシップを高めることをねらいにした手法。乗務前点呼や朝礼などを利用して健康状態の確認などを行います。

ヒヤリ・ハットKYT

道路地図上にヒヤリ・ハットの箇所を書き出し、危険情報を共有→確認する手法。安全運転、交通事故撲滅を目的とします。

KYT手法の基礎手法「4ラウンドKYT」とは

4ラウンドKYTは、次のような4手順で行います。（詳細は次ページを参照）

第1ラウンド	現状把握	どんな危険が潜んでいるか			
第2ラウンド	本質追求	これが危険のポイントだ			
第3ラウンド	対策樹立	あなたならどうする			
第4ラウンド	目標設定	私たちはこうする			

4ラウンドKYTの具体的な進め方

KYTは、1枚のイラスト（もしくは写真など）を見せながら、そこに「どんな危険が潜んでいるか」を、参加者（運転者）に問いかけることから始めます。参加者は考えられる危険要因（労働災害事故の原因となる可能性のある状況や行為など）と現象を発表、書記係はその内容をホワイトボードなどに記録していきます。4ラウンドKYTの具体的な進め方は下記のようになります。この手順によって実施しましょう。

事前準備

1チーム5～6人程度で行い、リーダー（進行係）、書記係、発表者と役割を決めて行います。参加者の発想を記録するためのホワイトボードやメモ（レポート）用紙などを準備しておきます。

テーマ設定

職場や作業現場などの日常の風景を、イラスト（もしくは写真）にして作業チームの前に提示し、トレーニングを開始します。



第1ラウンド 現状把握 どんな危険が潜んでいるか

リーダーが、提示されたイラスト（もしくは写真）を見せながら、そこに「どんな危険が潜んでいるか」を、参加者に問いかけます。

参加者は、考えられる危険要因と現象を発表、書記係はその発表内容をホワイトボードなどに記録します。できれば、この時点で5～7項目を挙げます。

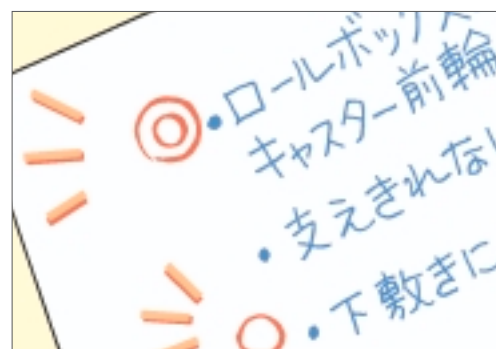
*問題点の指摘は自由に行わせ、他メンバーの指摘内容に対して批判は行わないようにします。



第2ラウンド 本質追求 これが危険のポイントだ

第1ラウンドで出された“危険要因”の中から、危険ポイントを絞り込んでいきます（5～7項目を3項目程度に絞り込みます）。危険ポイントをホワイトボードに記し、問題点を整理するためにメンバー間で検討していきます。

*第1ラウンドで出された危険要因のうち、関心が高く、重大事故につながり緊急を要する2～3項目について◎（最重要）、○（重要）印をつけると絞り込みやすくなります。



第3ラウンド 対策樹立 あなたならどうする

第2ラウンドで絞り込んだ危険ポイントに対して、どのような行動（改善策）とするかを考え、それをホワイトボードに書き出します。（最終的に1～2項目に絞り込みます）

*改善策は、自分たちが“実施可能な”もののみを挙げさせます。



第4ラウンド 目標設定 私たちはこうする

第3ラウンドで出された対策のうち、すぐ実施する重点実施項目を全員の合意で1項目選び、それを行動目標に設定します。

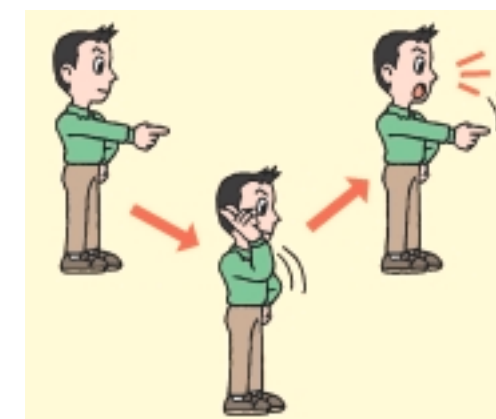
設定された行動目標を全員で指差唱和します。



確認 指差呼称 項目設定

第4ラウンドで設定した行動目標を、現場で確実に実施するための指差呼称項目「何々 ヨシ!」を全員の合意で決めて、リーダーのリードで3回指差唱和し、KYTを終了します。

*指差呼称とは、作業を正確に、安全に進めていくことを目的に、作業の要所・要所で「何々 ヨシ!」と指を差して確認することをいいます。確認する場合は、確認する対象に腕を伸ばしてしっかりと指差し、ハッキリした声で呼称し確認します。全員で対象を指差し、唱和して確認することで、チームの一体感・連帯感を高めることをねらいとしています。



指差呼称の実施で作業の誤りが1/6に減少

（財）鉄道総合研究所が、1994年に実施した指差呼称の効果検定実験結果によると、指差呼称をした場合は、何もしない場合に比べて「作業の誤りの発生率」が約6分の1以下まで減少したとのこと。指差呼称の正確性・安全性が立証されています。ぜひ、日常作業の確認事項として取り入れたいものです。

事例をもとに4ラウンドKYTをマスターしよう

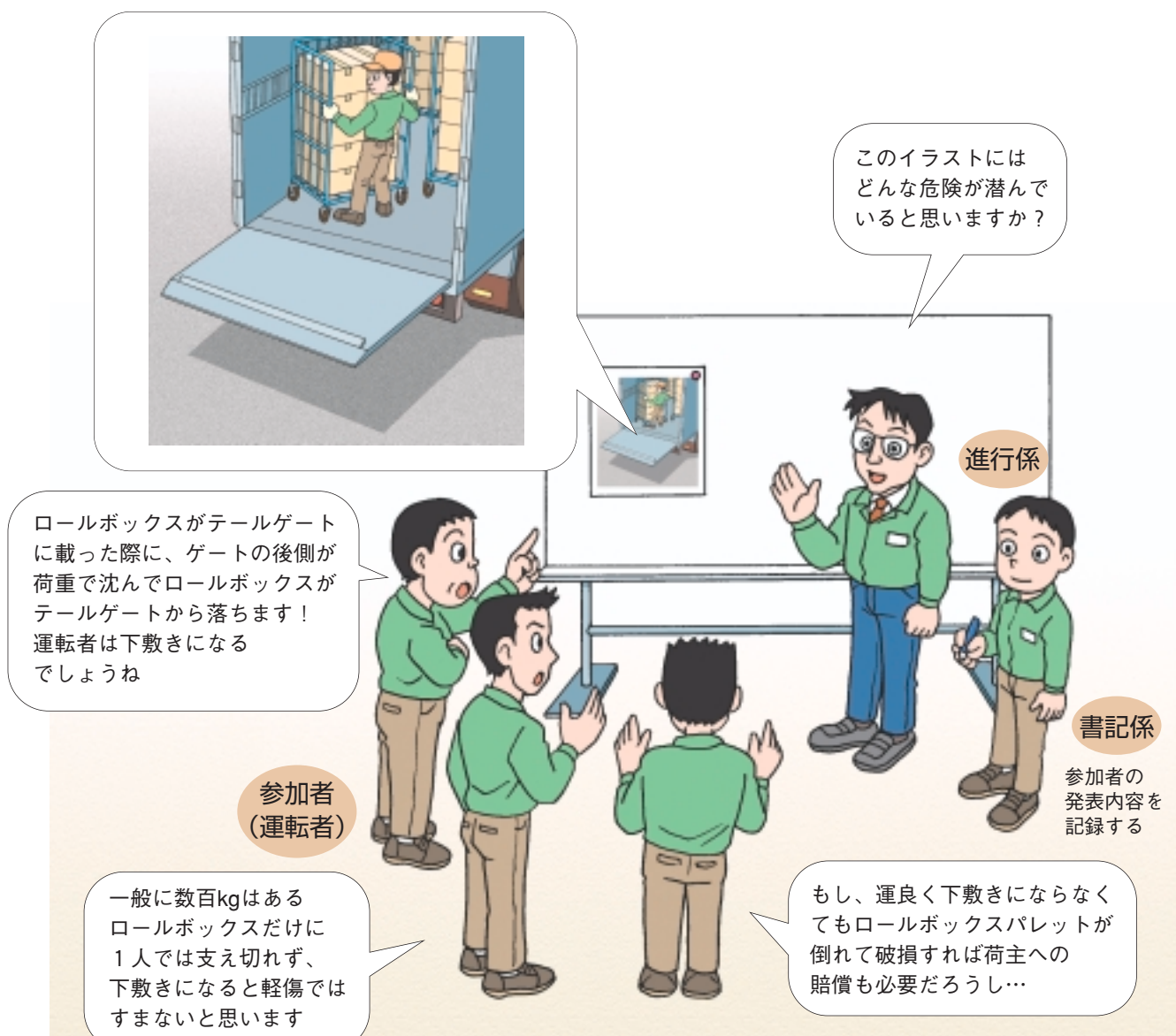
ここでは、荷役作業の“積卸し作業中の事故”事例をもとに、4ラウンドKYTの第1ラウンド～第4ラウンドの具体的な進め方について、イラストを中心に紹介します。

第1ラウンド 現状把握 どんな危険が潜んでいるか

最初に、リーダー（進行係）がイラストの状況説明を行います。事例の場合は次のようになります。
「このイラストは、4トン車のテールゲートで、ロールボックスを卸す作業中のものです。運転者はトラックの前方からロールボックスを荷台後方まで移動し、ゲート部に載せ、ロールボックスを支えるために荷台から地上に降りて、ゲート部の前でロールボックスを受ける作業です」

第1ラウンドでは、参加者がイラストを見て、自分の発想を述べていきます。書記はそれをホワイトボードなどに書き留めていきます。

このとき、参加者は「〇〇して、〇〇なので、〇〇になる。」というように、「危険要因+現象」で述べるようにします。5～7項目位出たところで、第2ラウンドに進みます。



第2ラウンド 本質追求 これが危険のポイントだ

第2ラウンドでは、第1ラウンドで参加者から出た“危険要因”の中から、危険ポイントを絞り込んでいきます（3項目以内程度に）。

ここでは「**車体が傾いて、ロールボックスが外側に動き出し、運転者が下敷きになる**」を危険ポイントに絞り込みましたが、それ以外であっても構いません。

危険ポイントを絞り込んだら、なぜそのような状態になるのか原因を全員で話し合い、第3ラウンドの対策の樹立に移ります。



第3ラウンド 対策樹立 あなたならどうする

第3ラウンドでは、第2ラウンドで絞り込んだ危険ポイント「車体が傾いて、ロールボックスが外側に動き出し、運転者が下敷きになる」に対して、どのような対策を取るかを考えてもらいます。

ここでは、下記イラストのように、「**テールゲートで作業を行う場合は、必ずキャストーストッパーが立っているかを確認すること**」を行動目標（改善策）とすることにしました。

このほか、全社的な基本事項として「テールゲート車の作業手順（マニュアル）」を作成し、運転者に指導、徹底するなどの方策を講じると、作業のより正確性・安全性が期待できます。

- ◎・テールゲートで作業を行う場合は、必ずキャストーストッパーが立っているかを確認すること
- ・やむを得ずキャストーストッパーが付いていない車両を使用する場合は、必ず輪止めなどの対策を講じること
- ・ロールボックス等荷の正面に立たない

テールゲートで作業を行う場合は、必ずキャストーストッパーが立っているかを確認しないとね

やむを得ずキャストーストッパーが付いていない車両を使用する場合は、必ず輪止めなどの対策を講じますね



第4ラウンド 目標設定 私たちはこうする

第4ラウンドでは、第3ラウンドで出された改善策のうち、すぐ実施する重点実施項目を全員の合意で1項目選び、それについての行動目標と指差呼称を決めます。

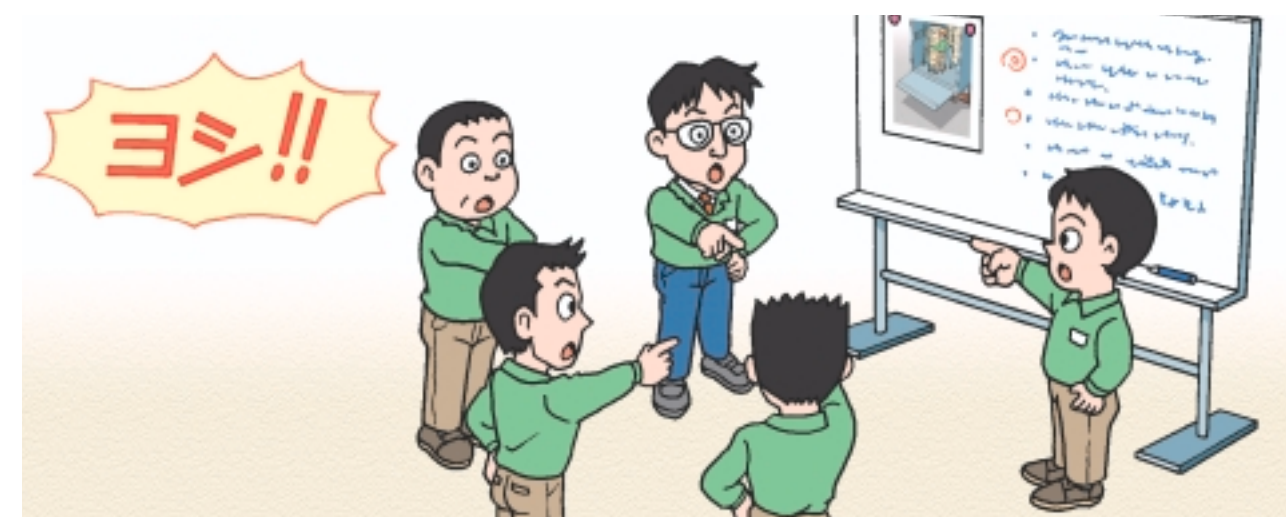
行動目標「**テールゲートリフターを使ってロールボックスの積卸し作業を行うときは、**

キャストーストッパーを立ててから作業しよう。」

指差呼称「**キャストーストッパー確認、ヨシッ！」**

最後に、参加者全員で「指差呼称」を3回唱和します。それにより安全意識と参加意識が高まり、日常作業の中に潜む危険についての認識を新たにします。

「キャストーストッパー確認、ヨシッ！」



KYTは難しいものではありません
早速チャレンジして
“労災事故撲滅”に
取り組んでください！

本編では10事例を紹介しています
この他の事例をみなさんの事業所で
話し合い、事故の原因や防止策を
考えて実行してみてください



No.1 どんな危険が潜んでいると思いますか？

状 況

4トン車の後部に設置されたテールゲートリフターを使って、ロールボックスを卸そうとしています。



第1ラウンド	現状把握 どんな危険が潜んでいるか ○荷がテールゲートに乗った際にゲートの後ろ側が沈み、荷が落下する。 ◎車体が傾いて、ロールボックスが外側に動き出し、テールゲートから落ちる。 ○一人で支え切れる重量ではないロールボックスを支えようとする、作業者が下敷きになる。 ○荷を地上に卸すまでは、危険な場所に身体が入ると作業者が下敷きになる。  リーダーは作業の状況を読み上げます。 “危険要因”と引き起こされる“現象（事故の型）”を全員で出し合います。 「～なので～して～になる。」など。
第2ラウンド	本質追求 これが危険のポイントだ ◎車体が傾いて、ロールボックスが外側に動き出し、テールゲートから落ちる。 第1ラウンドの項目を絞り込みます。 （ここでは、第1ラウンドの◎に絞り込んだとします。） 絞り込み項目を声に出して確認します。
第3ラウンド	対策樹立 あなたならどうする ○ロールボックスの車輪を固定させ動かないようにする。 ◎テールゲートで作業を行う場合は、必ずキャストストッパーが立っているかを確認する。 ○やむを得ずキャストストッパーが付いていない車両を使用する場合は、必ず輪止めなどの対策を講じる。 ○キャスター正面に立たない。 第2ラウンドの危険のポイントに対し、具体的で実行可能な対策を検討します。
第4ラウンド	目標設定 私たちはこうする ●テールゲートリフターを使ってロールボックスの積卸し作業を行うときは、キャストストッパーを立ててから作業しよう ヨシ！ 第3ラウンドの対策を絞り込みます。 チーム行動目標を決定し、全員で指差し唱和します。
確 認	指差呼称 項目設定 ●キャストストッパー確認 ヨシ！ 全員で3回唱和し、実施事項を確認します。

No.2 どんな危険が潜んでいると思いますか？

状況

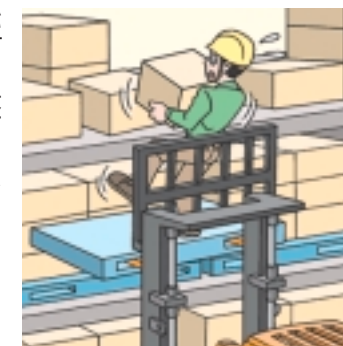
高さ3mのラック（棚）から段ボールを取るために、フォークリフトを呼んで、空パレットを差して、その上に乗って作業をしています。



第1ラウンド

現状把握 どんな危険が潜んでいるか

- ◎フォーク上のパレットで作業中に、パレットが傾き、作業者が墜落する。
- 作業者がパレットの端に乗ったときに傾いて墜落する。
- 素手でダンボールを取り扱っているので、手を損傷する。



リーダーは作業の状況を読み上げます。
“危険要因”と引き起こされる“現象（事故の型）”を全員で出し合います。
「～なので～して～になる。」など。

第2ラウンド

本質追求 これが危険のポイントだ

- ◎フォーク上のパレットで作業中に、パレットが傾き、作業者が墜落する。

第1ラウンドの項目を絞り込みます。
（ここでは、第1ラウンドの◎に絞り込んだとします。）
絞り込み項目を声に出して確認します。

第3ラウンド

対策樹立 あなたならどうする

- パレットの上に乗って作業をしない。
- ◎ラック上部の荷卸し作業は、フォークリフトではなく、昇降用はしごを使用する。
- ラックの荷はパレット荷とし、フォークリフトで地上（もしくはトラックの荷台上）にパレットごと卸してから作業をする。（ラックに荷を保管するときも同じ。）
- フォークリフトの乗車席以外の箇所に作業者を乗せない。
（※フォークリフト等については、乗車席以外への搭乗が原則禁止されています。労働安全衛生規則第151条の13）

第2ラウンドの危険のポイントに対し、具体的で実行可能な対策を検討します。

第4ラウンド

目標設定 私たちはこうする

- ラックからの荷卸しは、昇降用はしごを使ってしよう ヨシ！

第3ラウンドの対策を絞り込みます。
チーム行動目標を決定し、全員で指差し唱和します。

確認

指差呼称 項目設定

- はしご使用 ヨシ！

全員で3回唱和し、実施事項を確認します。

No.3 どんな危険が潜んでいると思いますか？

状況

トラック荷台に貨物を積載後、あおりに乗ってシート掛けをしています。



第1ラウンド

現状把握 どんな危険が潜んでいるか

- ◎あおりに乗ってシート掛けをしていて、バランスをくずし墜落する。
- 荷にシートが引っ掛かり、引っ張ったときにバランスをくずし墜落する。
- トラックが急に発進し作業者があおりから墜落する。



リーダーは作業の状況を読み上げます。
“危険要因”と引き起こされる“現象（事故の型）”を全員で出し合います。
「～なので～して～になる。」など。

第2ラウンド

本質追求 これが危険のポイントだ

- ◎あおりに乗ってシート掛けをしていて、バランスをくずし墜落する。

第1ラウンドの項目を絞り込みます。
（ここでは、第1ラウンドの◎に絞り込んだとします。）
絞り込み項目を声に出して確認します。

第3ラウンド

対策樹立 あなたならどうする

- ◎荷台の外で足場や脚立を使用して行い、トラックのあおりの上では作業を行わない。
- 荷台で作業を行う場合は背中を荷台の内側に向けて作業をする。
- シートが引っ掛かった場合は、強引に引っ張らずにその場で直す。
（引っ張る場合はその反動を考えて作業を行う。）
- 作業中は保護帽、保護手袋、安全靴などを使用する。
- シート掛け作業はエンジンを切って行う。

第2ラウンドの危険のポイントに対し、具体的で実行可能な対策を検討します。

第4ラウンド

目標設定 私たちはこうする

- 荷のシート掛けは、専用の足場を設けよう ヨシ！

第3ラウンドの対策を絞り込みます。
チーム行動目標を決定し、全員で指差し唱和します。

確認

指差呼称 項目設定

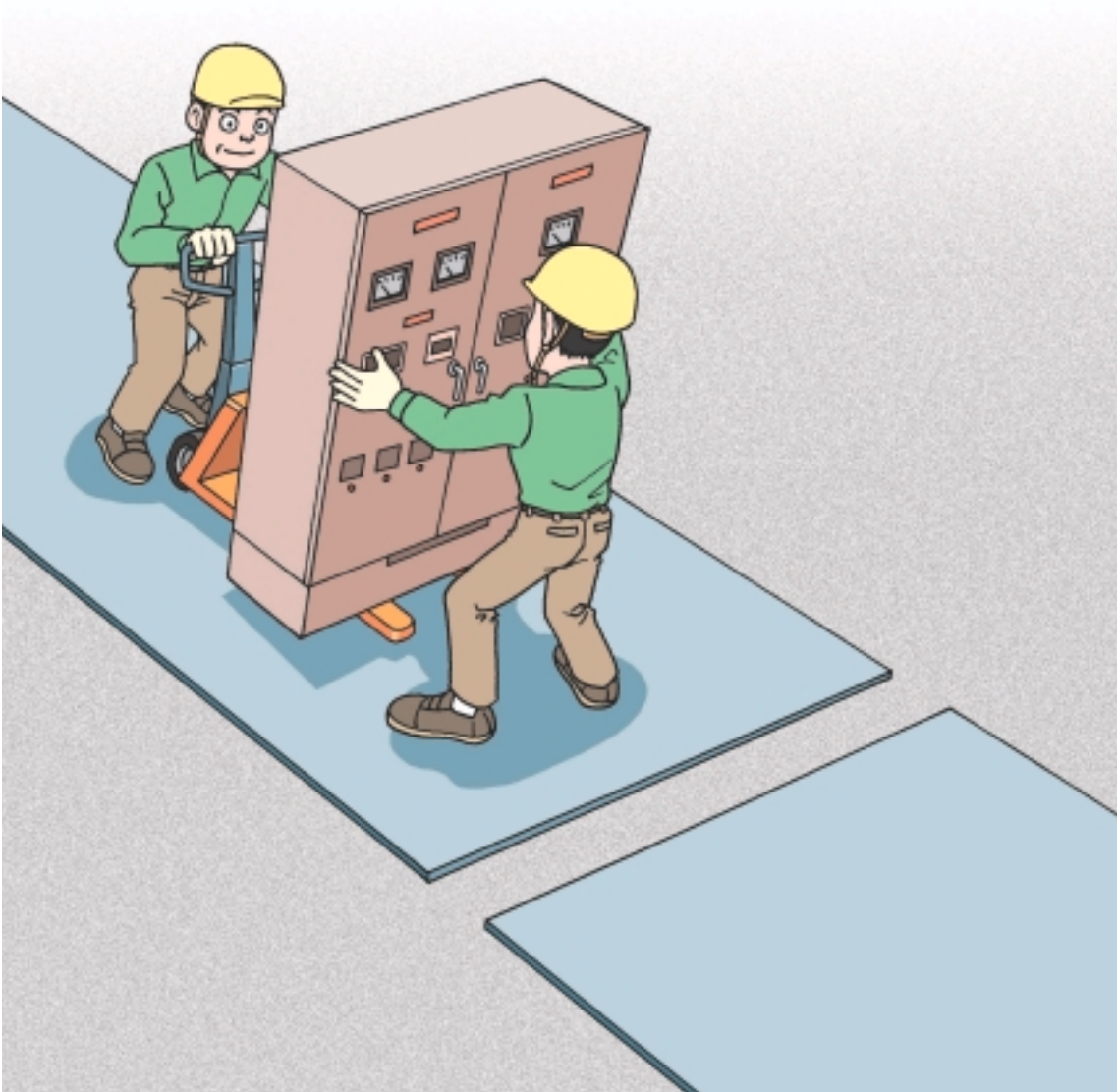
- シート掛け足場 ヨシ！

全員で3回唱和し、実施事項を確認します。

No.4 どんな危険が潜んでいると思いますか？

状況

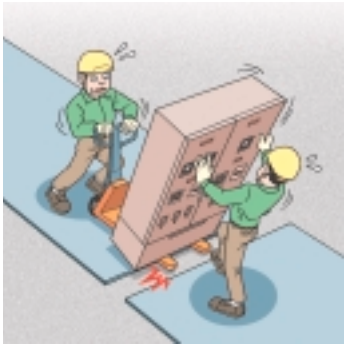
ハンドリフトに制御盤を載せて、2人で設置場所まで運搬しようとしています。



第1ラウンド

現状把握 どんな危険が潜んでいるか

- 床の養生材のつなぎ目の段差にハンドリフトの車輪が引っかかり、制御盤が倒れる。
- 倒れそうになった制御盤を1人で支えようとして下敷きになる。
- ハンドリフトに積んだ制御盤で前方が見えにくく、操作を誤り制御盤を転倒させる。
- 路面の凹凸で制御盤が不安定になり、倒れる。



第2ラウンド

本質追求 これが危険のポイントだ

- 床の養生材のつなぎ目の段差にハンドリフトの車輪が引っかかり、制御盤が倒れる。

第3ラウンド

対策樹立 あなたならどうする

- 制御盤などの重い荷や大きい荷を運搬するときは、フォークリフトやクレーンなどの機械を使って作業を行う。
- 床に養生材を設置するときは、つなぎ目にすき間が生じないように設置する。
- ハンドリフトは引いて使用する。
- 重い荷や背の高い荷を人力で運搬するときには、人数に余裕を持たせて行う。
- 2人で作業をするときは、声を掛け合って作業をする。
- 補助者は、荷の転倒しやすい方向に位置しない。
- 必要に応じて荷にロープ掛けなどを施す。

第4ラウンド

目標設定 私たちはこうする

- ハンドリフト作業は、通路を安全な状態にしよう ヨシ！

確認

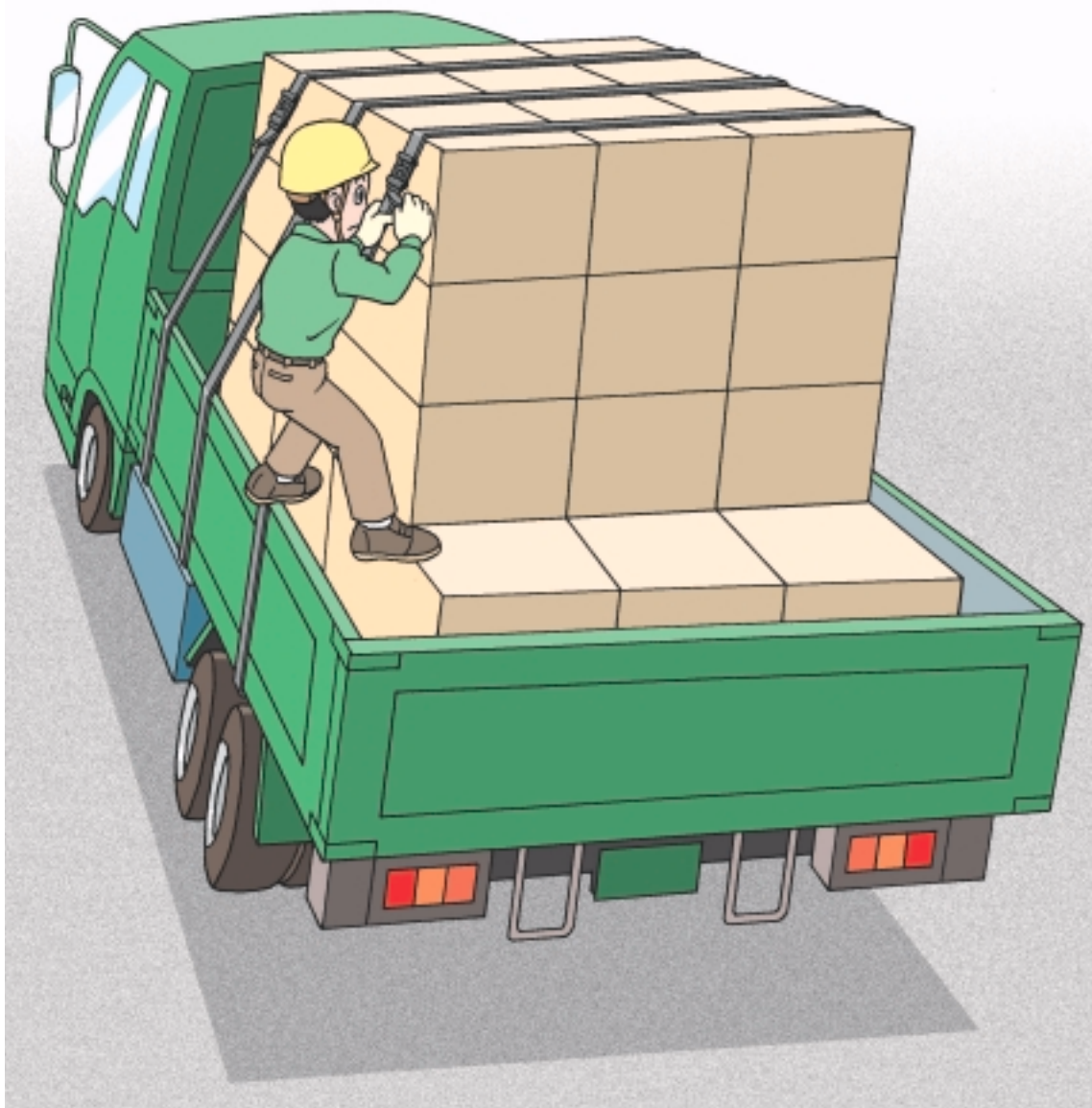
指差呼称 項目設定

- 安全通路確保 ヨシ！

No.5 どんな危険が潜んでいると思いますか？

状況

トラックの荷台上でラッシングベルトを緩めようとしています。



第1ラウンド	現状把握 どんな危険が潜んでいるか
	○荷台のあおりで足を踏みはずし、バランスをくずし地上に墜落する。 ○ラッシングベルトが急に緩み、バランスをくずして墜落する。 ○ラッシングベルトを緩めるとき、力を入れ過ぎて、その反動で作業者が墜落する。 
	第2ラウンド
	本質追求 これが危険のポイントだ
第3ラウンド	◎荷台のあおりで足を踏みはずし、バランスをくずし地上に墜落する。
	対策樹立 あなたならどうする
第4ラウンド	○車両のあおりに足を掛けない。
	○ラッシングベルトは操作不良になっても力ずくに操作しない。
確認	○引っ張る場合は、その反動を予測して無理な姿勢で作業をしない。
	○車両の荷台で作業が難しいと想定される場合は、足場や脚立を準備し使用する。
指差呼称 項目設定	◎ラッシングベルトは地上で作業できる位置にセットして行う。
	目標設定 私たちはこうする
指差呼称 項目設定	●ラッシングベルト作業は、地上で行おう ヨシ！
	●ラッシングベルト ヨシ！

No.6 どんな危険が潜んでいると思いますか？

状 況

重さ30kgの段ボール箱を持ち上げて、台車に積もうとしています。

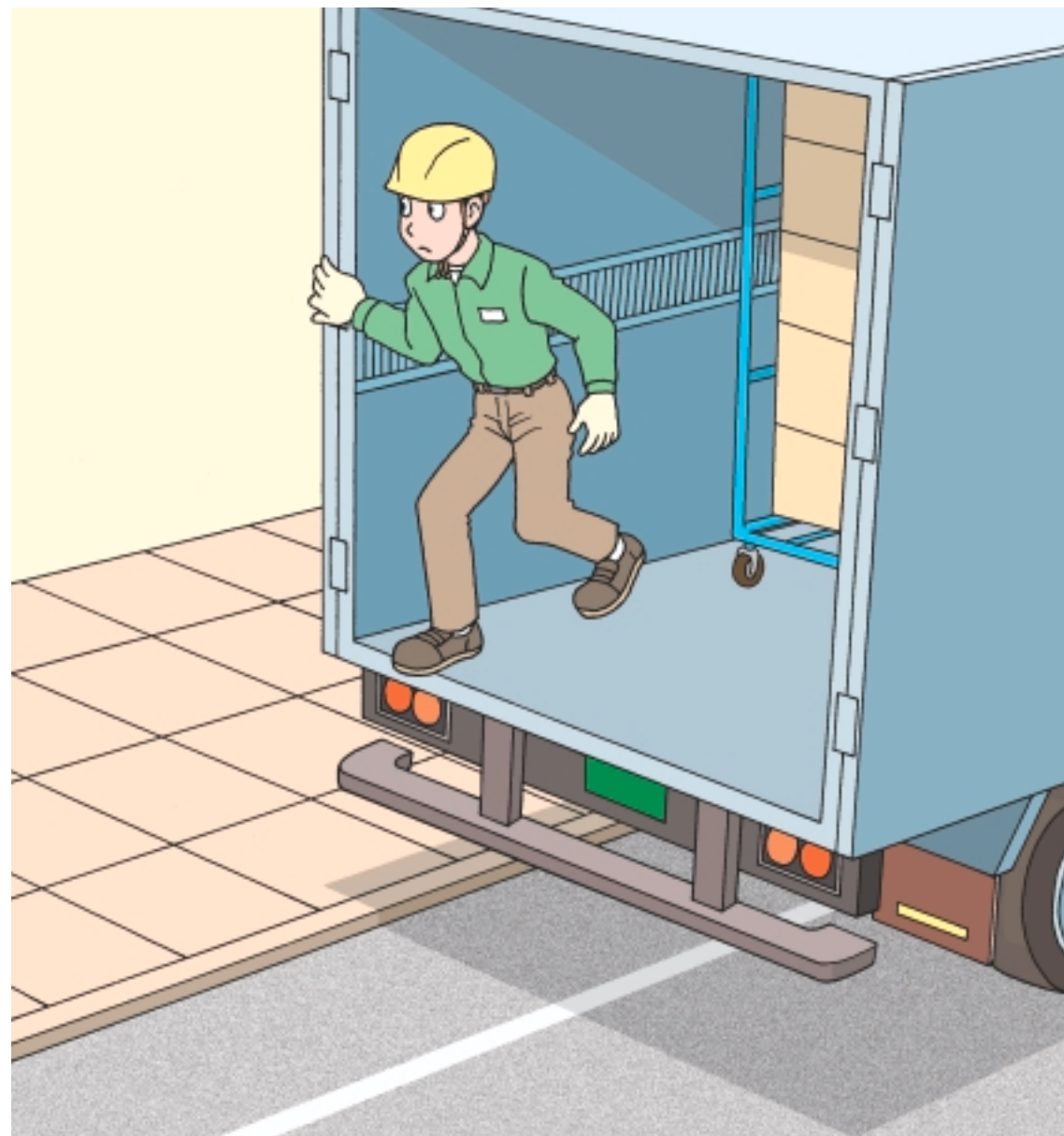


第1ラウンド	現状把握 どんな危険が潜んでいるか ○無理な姿勢で荷を持ち上げようとして腰を痛める。 ○荷を持ち上げたが重くて、自分の足の上に荷を落とす。 
第2ラウンド	本質追求 これが危険のポイントだ ○無理な姿勢で荷を持ち上げようとして腰を痛める。
第3ラウンド	対策樹立 あなたならどうする ○台車は荷の横に置く。 ○荷を持ち上げるときは、膝を曲げ、腰を十分に降ろした姿勢から持ち上げる。 ○重い荷を持ち上げるときは、二人で作業を行う。 ○荷については重量を明示〈もしくは確認〉する。
第4ラウンド	目標設定 私たちはこうする ●荷を持ち上げるときは、腰を十分に降ろそう ヨシ！
確 認	指差呼称 項目設定
	●作業姿勢 ヨシ！

No.7 どんな危険が潜んでいると思いますか？

状況

トラックで品物を配達作業中、荷台から道路上に飛び降りようとしています。



第1ラウンド	現状把握 どんな危険が潜んでいるか ◎飛び降りたときに足首をねんざする。 ○飛び降りたはずみで、勢いあまって前に転び、手足を負傷する。 ○飛び降りたはずみで、歩行者や自転車とぶつかる。
第2ラウンド	本質追求 これが危険のポイントだ ◎飛び降りたときに足首をねんざする。
第3ラウンド	対策樹立 あなたならどうする ◎荷台から降りるときは、ステップに足を掛け、車体などに手を掛けながらゆっくりと降りる。 ○降りるときは、段差や路面に凹凸がないかを確認して降りる。
第4ラウンド	目標設定 私たちはこうする ●荷台から降りるときはステップを使用しよう ヨシ！
確認	指差呼称 項目設定 ●ステップ ヨシ！

No.8 どんな危険が潜んでいると思いますか？

状 況

車両を止めて、トラックの荷台から荷を卸そうと“後ろの扉”を開けようとしています。



第1ラウンド	現状把握 どんな危険が潜んでいるか ◎扉を勢いよく開けたとき、輸送中に動いた荷が落ちてきてケガをする。 ○荷が地面に落ちて破損する。 ○右側の扉を開けると、走行中の車に衝突する。 ○左側の扉を開けると、自転車、歩行者に衝突する。 
第2ラウンド	本質追求 これが危険のポイントだ ◎扉を勢いよく開けたとき、輸送中に動いた荷が落ちてきてケガをする。
第3ラウンド	対策樹立 あなたならどうする ◎トラックやコンテナの扉を開けるときは、勢いよく開けない。必ずゆっくり中の様子を確認しながら開ける。 ○扉を開けるときは、扉の前に立たない。 ○荷が落下しないよう、正しい積み付けと安全運転を励行する。 ○積み荷は必要に応じ、ラッシングベルト等で固定する。
第4ラウンド	目標設定 私たちはこうする ●扉は、荷の状態を確認しながら、ゆっくりと開けよう ヨシ！
確 認	指差呼称 項目設定 ●荷の確認 ヨシ！

No.9 どんな危険が潜んでいると思いますか？

状況

客先の工場敷地内にて、フォークリフトでトラックの荷台上に荷物（パレット荷）を積んでいます。
荷物の位置決めのため、合図者（トラック運転者）が荷台上で誘導しています。



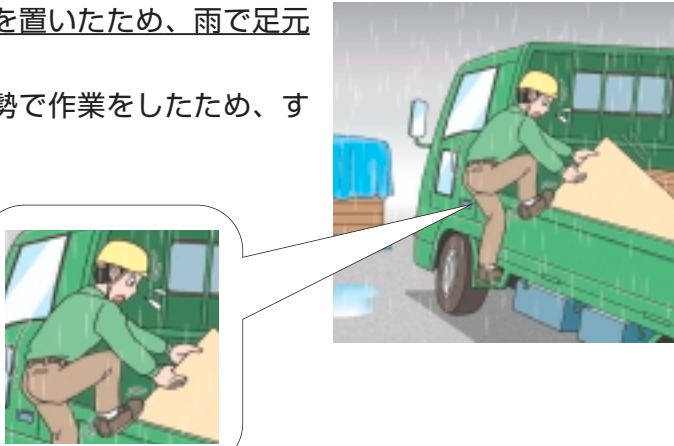
第1ラウンド	現状把握 どんな危険が潜んでいるか ○フォークリフトの運転者が、荷台上の合図者（トラック運転者）に気づかず前進し、合図者がパレット荷とあおりの間にはさまれる。 ○合図者が荷台上から墜落する。 ○フォークリフトがトラックにぶつかり、フォークリフトの運転者がケガをする。 ◎<u>フォークリフトでトラックにパレット荷を積み込むときに、荷に押されて合図者（トラック運転者）が墜落する。</u> 
第2ラウンド	本質追求 これが危険のポイントだ ◎<u>フォークリフトでトラックにパレット荷を積み込むときに、荷に押されて合図者（トラック運転者）が墜落する。</u>
第3ラウンド	対策樹立 あなたならどうする ◎荷台上の合図者は必ずフォークリフト運転者から見える位置で合図を行う。 ○フォークリフト運転者と合図者の間で、合図の方法を決めておく。 ○合図者はフォークリフトの作業範囲から外れた場所で合図を行う。 ○フォークリフト運転者は、荷だけに気を取られず、合図者の位置にも気を配り、正確、確実に作業を行う。
第4ラウンド	目標設定 私たちはこうする ●荷台の合図者は、フォークリフト運転者から見える位置で合図をしようヨシ！
確認	指差呼称 項目設定 ●合図の位置 ヨシ！

No.10 どんな危険が潜んでいると思いますか？

状 況

雨天時、屋外での車両からの荷卸し作業中、養生用のベニヤ材を卸そうとしています。



第1ラウンド	現状把握 どんな危険が潜んでいるか ◎ステップとあおりに足を置いたため、雨で足元がすべり墜落する。 ○雨のため、不安定な体勢で作業をしたため、すべって墜落する。 
第2ラウンド	本質追求 これが危険のポイントだ ◎ステップとあおりに足を置いたため、雨で足元がすべり墜落する。
第3ラウンド	対策樹立 あなたならどうする ◎昇降用のはしごを使用する。 ○車両荷台のあおりの上には、足を掛けない。 ○不安定な体勢で作業を行わない。 ○雨天時の作業手順、作業方法を決めておく。 ○ステップは、雨天時はすべりやすいので、ウレタンなど滑り防止材を取り付ける。
第4ラウンド	目標設定 私たちはこうする ●雨天時は昇降用はしごを使おう ヨシ！
確 認	指差呼称 項目設定 ●昇降用はしご ヨシ！